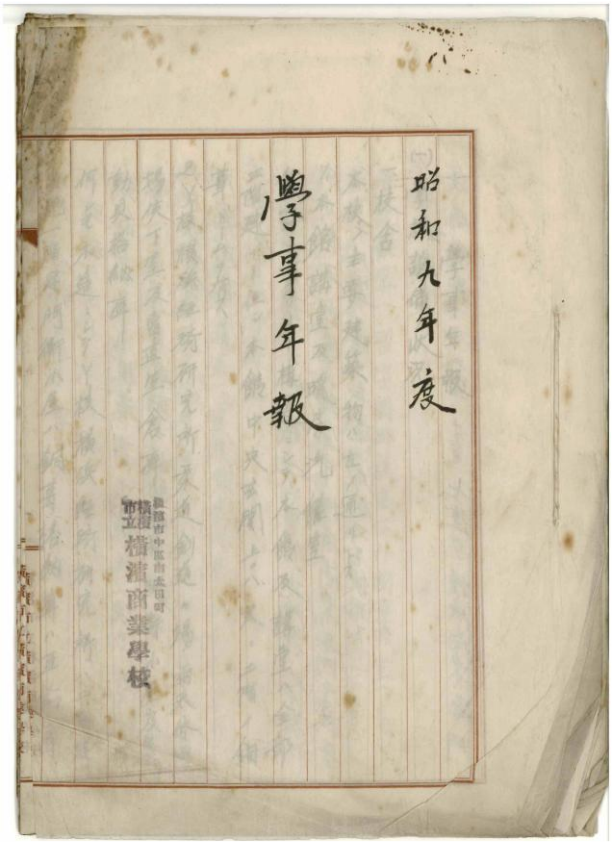
Y校アーカイブ　vol. 21　「学　事　年　報」

昭和9年度の学事年報です。一年間の学校のあらゆる情報が記載されています。

こよりで綴られた14枚の紙は赤い罫線が引かれているB4サイズの原稿用紙で、中央に「横濱市立横濱商業學校」と印刷されています。表紙には「昭和九年度　學事年報」と筆で記され、「横濱市中区南太田町横濱市立横濱商業學校」の印が捺されています。南区は今年で区制80周年、昭和19年に誕生したので、昭和9年当時はまだ「中区」でした。本文はガリ版刷りと思われる印刷で、学校の設備から先生方の待遇、学校の教育方針や志願者数及び倍率、修学旅行などの状況、就職状況や実業界との関係なども書かれています。

1.



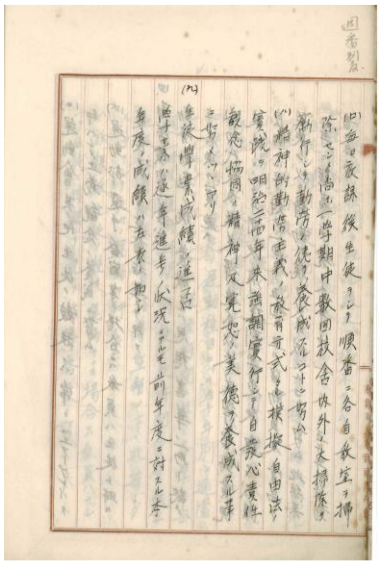
2.



3.



4.



5.



1．表紙　　2．Y校横濱経済研究所が学内に設置されていたようです。

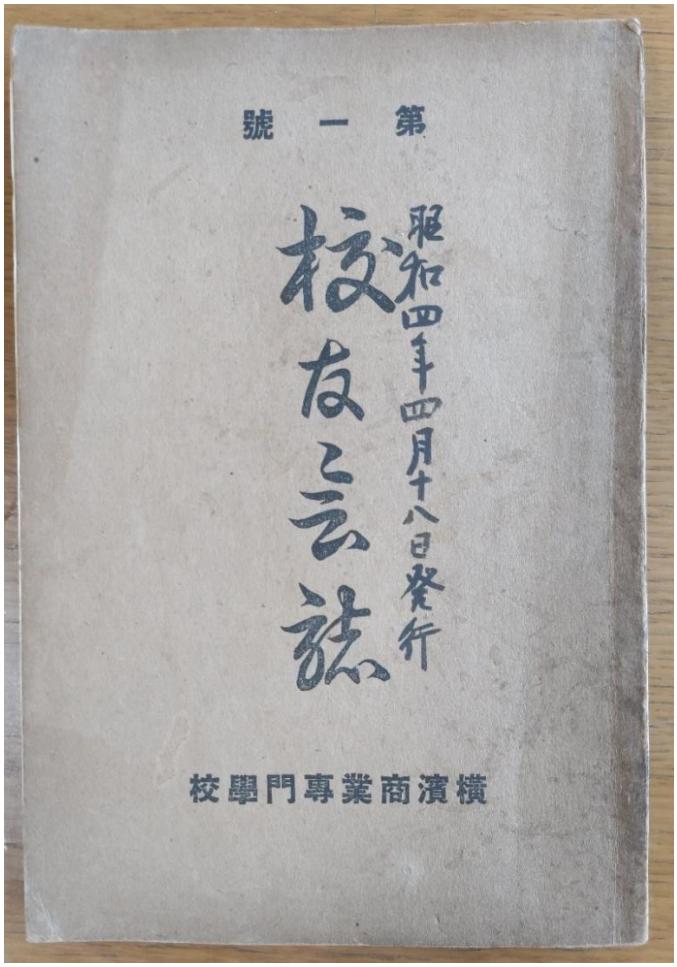
3．便所(トイレ)は浄化装置付き　　4．掃除についても書かれています。

5．夏休みなどには、百貨店や郵便局でインターン活動を行っていたようです。

Y校アーカイブ vol. 22「 横濱商業専門學校 校友会誌 第一號 」

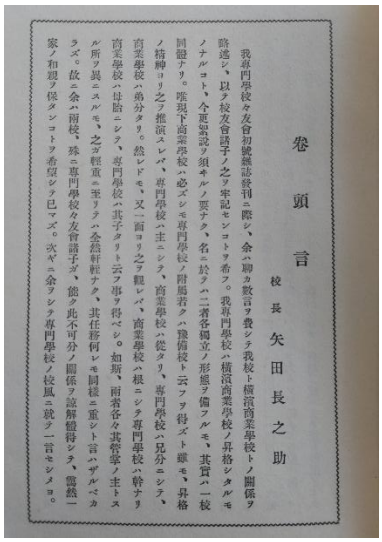
横浜市立大学の前身は横浜商業専門学校といって、Y校がルーツとなっています。明治15年に設立されたY校の最初の修業年限は5ヶ年でした。大正9年に7年制となり、大正9年に本科5年、専修科2年制と変更、そののち昭和3年に専修科を廃止して修業年限3年制の「横浜市立横浜商業専門学校」が設立され、第二次世界大戦後の昭和24年に「横浜市立大学」となります。

今回の資料は、昭和4年4月に発行された「横濱商業専門學校　校友会誌　第一號」です。Y校生の皆さんが作っている「清水ヶ丘」のような文集です。内容はエッセイや詩、戯曲などさまざまで、恋や愛のことを率直に書いているものも多くあります。

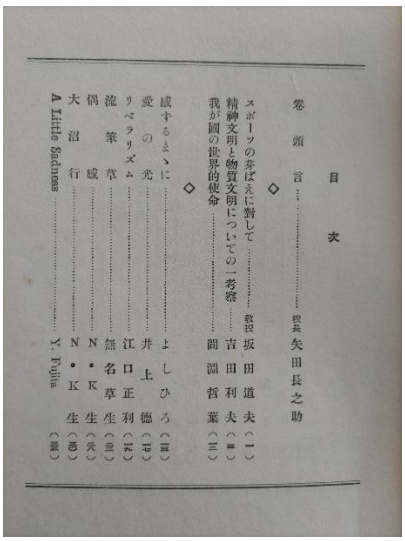


縦 22 cm、横 15 cm
厚さ 8 mm

文集部分が 79 ページ、
部活動などの紹介ページが
27 ページあります。


巻頭言　校長　矢田長之助

我専門學校々友會初號雜誌發刊ニ際シ、余ハ聊カ數言ヲ費シテ我校ト横濱商業學校トノ關係ヲ略述シ、以ヲ校友會諸子ノ之ヲ牢記センコトヲ希フ。我專門學校ハ横濱商業學校ノ昇格シタルモノナルコト、今更喋々ヲ須キルノ要ナク、名ニ於テハ二者各獨立ノ形態ヲ備フルモ、其實ハ一校同體ナリ。唯現下商業學校ハ必ズシモ專門學校ノ附屬若クハ豫備校ト云フヲ得ズト雖モ、昇格ノ精神ヨリ之ヲ推演スレバ、專門學校ハ主ニシテ、商業學校ハ從タリ、專門學校ハ兄分ニシテ、商業學校ハ弟分タリ。然レドモ、又一面ヨリ之ヲ觀レバ、商業學校ハ根ニシテ專門學校ハ幹ナリ商業學校ハ母胎ニシテ、專門學校ハ其子タリト云フ事ヲ得ベシ。如斯、兩者各々其宜ヲ主トスル所ヲ異ニスルモ、之ガ輕重ニ至リテハ全然軒輊ナク、共ニ任務何レモ同樣ニ重シト言ハザルベカラズ。故ニ余ハ兩校、殊ニ專門學校々友會諸子ガ、能ク此不可分ノ關係ヲ諒解體得シテ、當然一家ノ和親ヲ保タンコトヲ希望シテ已マズ。次ヤニ余ヲシテ專門學校ノ校風ニ就テ一言セシメヨ。


目次

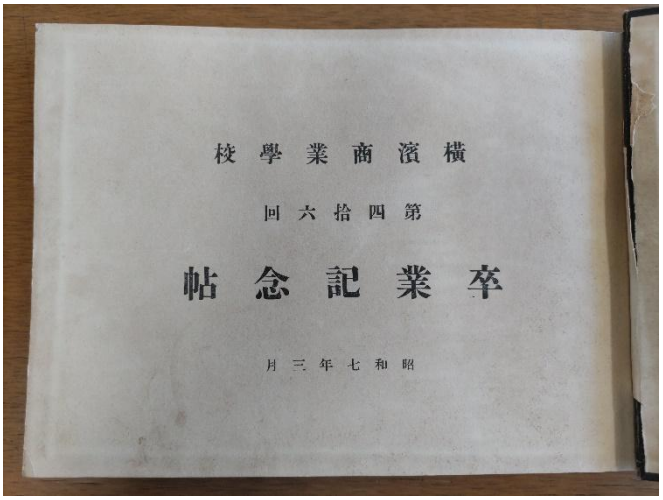
巻頭言……校長 矢田長之助
スポーツの芽ばえに對して……教授 坂田道夫（一）
精神文明と物質文明についての一考察……吉田利夫（四）
我が國の世界的使命……岡澤哲葉（一一）
◇
誠するまゝに……よしひろ（一四）
愛の光……井上德（一五）
リベラリズム……江口正利（一六）
流筆草……無名草生（二）
偶感……N・K生（六）
大沼行……N・K生（一〇）
A Little Sadness……Y. Fujita（一四）

Y校アーカイブ vol. 23「 卒業記念帖　昭和７年 」

昭和7年の卒業アルバムは、横 27cm、縦 19 cm、厚さ 1.5 cmほどの大きさで、横長の 37 枚の写真が紐で綴られています。表紙をめくると「横濱商業學校　第四拾六回　卒業記念帖　昭和七年三月」と、右から左に横書きで書かれています。Y校が男女共学になったのは昭和 24 年なので、119 名の卒業生は男子生徒ばかりです。



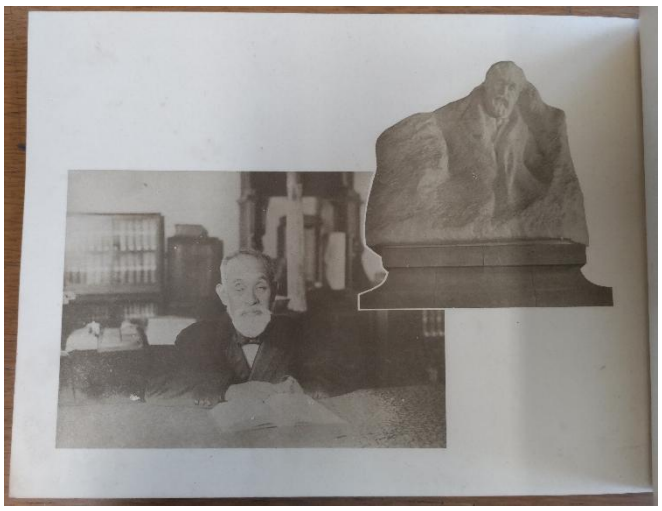
表　紙



中 表 紙



戦前から校舎には青いドームがありました



講堂の美澤先生の像はこのころから？



日露戦争後に授けられた大砲の前にいるのは校友会本部メンバー



寄せ書き

Y校アーカイブ　vol. 24　「そろばん」

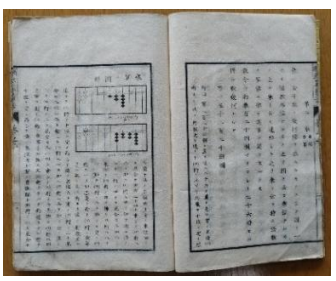
商業棟の2階の商業研究室入り口前に、昭和23年度Y校卒業生のご遺族からY校同窓会へ寄贈された「そろばん」が展示されています。 明治時代に使われていた旅枕そろばんは、箱根の寄木細工で作られた小箱の中に、そろばんだけでなく、ランプのような行灯（あんどん）も収められ、上部には枕になるようクッションがついています。Y校百周年記念で作られた100桁のそろばんの長さは140㎝近くありました。他にも翡翠（ひすい）で作られたずっしり重みのあるそろばん、目の不自由な方のための、珠ではなく木札で作られた視覚障害者用そろばん、中国やロシアのそろばんや、そろばん店の看板などが展示されています。



図書館には明治11年の「新選珠算精法」や、昭和12年の「珠算能力検定試験標準問題集」の、先生向け（御審査用）の印が捺されたものや、昭和14年の横濱商工會議所主催「第一回商業實務検定試験 珠算問題集」、昭和2年「珠算界之友」などが所蔵されています。



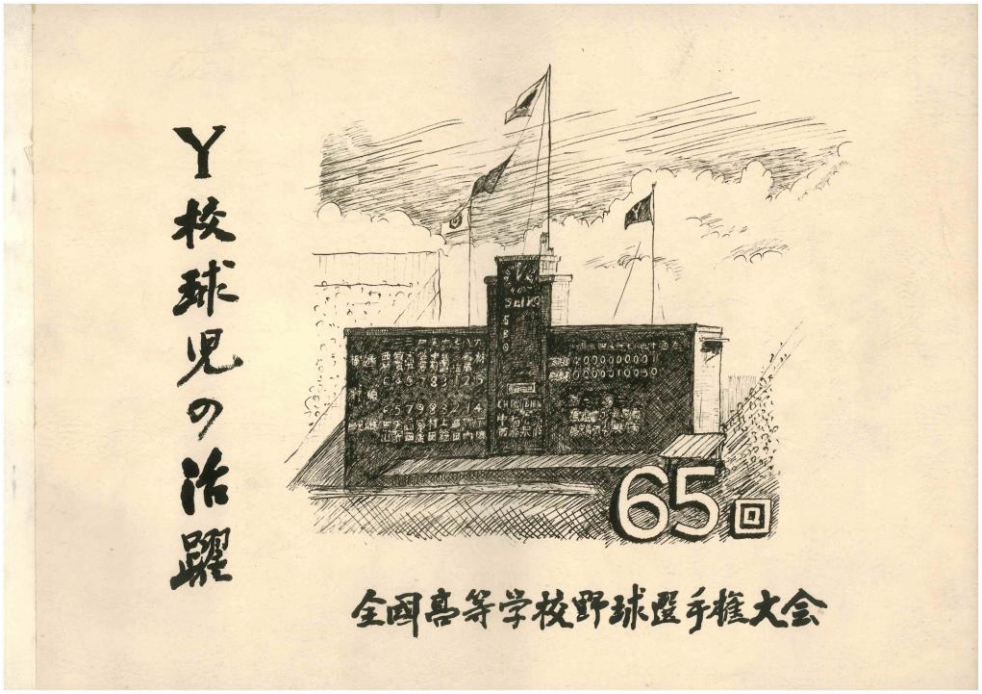


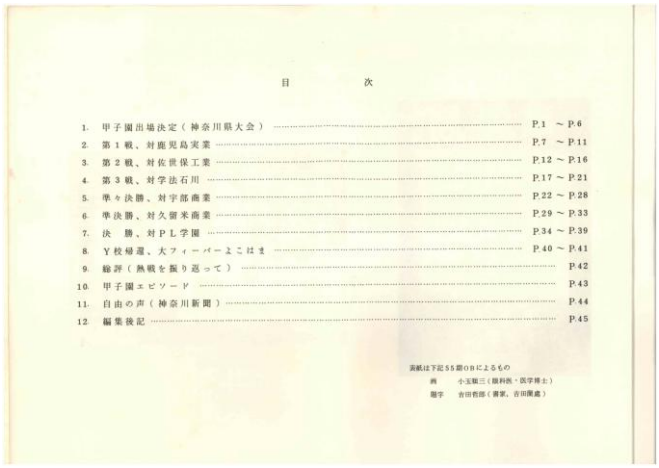


Y校アーカイブ　vol. 25　「 Y校球児の活躍 」

昭和58年(1983年)の第65回全国高等学校野球選手権大会の、新聞の切り抜きをまとめた冊子です。B4版、全45ページで、ホチキス留めしたものに厚手の上質な紙の表紙を付け、背表紙はテープで仕上げています。 Y 校第55期OB有志で作成したとあります。

この年は春の選抜にも出場して決勝戦で池田高校に敗れ、雪辱を果たすべく乗り込んだ甲子園でした。 鹿児島実業、佐世保工業、学法石川、宇部商業、久留米商業と勝ち進み、決勝戦では1年生で出場した桑田･清原擁するPL学園に、清原のホームランによって惜しくも敗れ、準優勝となった足跡が綴られています。 鹿児島、長崎、福島、山口、福岡など対戦相手の地域版の新聞も掲載されています。




目　次

1. 甲子園出場決定（神奈川県大会） …… P.1 ～ P.6
2. 第1戦、対鹿児島実業 …… P.7 ～ P.11
3. 第2戦、対佐世保工業 …… P.12 ～ P.16
4. 第3戦、対学法石川 …… P.17 ～ P.21
5. 準々決勝、対宇部商業 …… P.22 ～ P.28
6. 準決勝、対久留米商業 …… P.29 ～ P.33
7. 決　勝、対PL学園 …… P.34 ～ P.39
8. Y校帰還、大フィーバーよこはま …… P.40 ～ P.41
9. 総評（熱戦を振り返って） …… P.42
10. 甲子園エピソード …… P.43
11. 自由の声（神奈川新聞） …… P.44
12. 編集後記 …… P.45

表紙は下記55期OBによるもの
画　小玉敏三（眼科医・医学博士）
題字　吉田哲郎（書家、吉田蘭蔵）





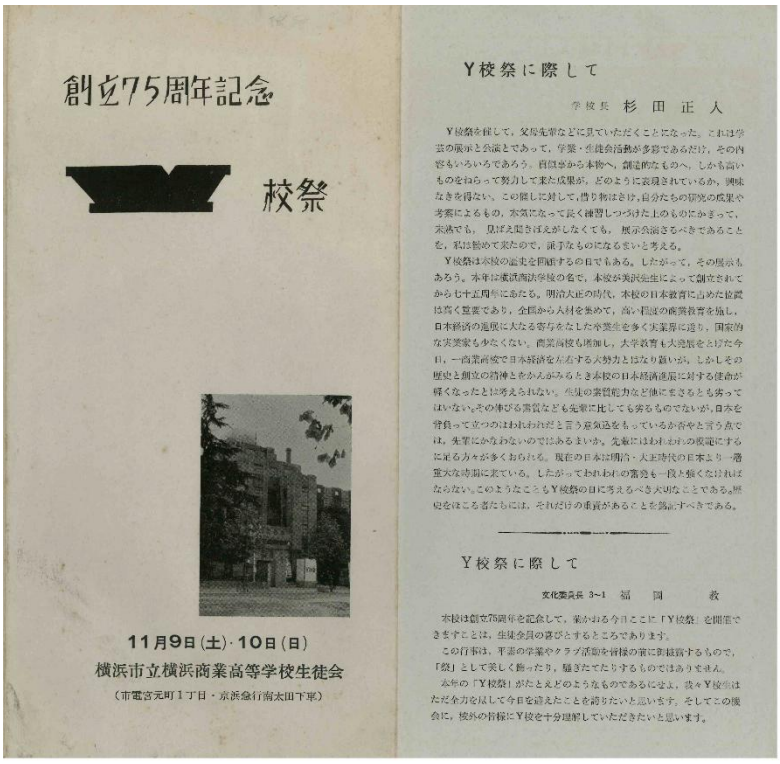




Y校アーカイブ　vol. 26　「 創立75周年記念文化祭パンフレット 」

昭和32年（1957年）のY校祭パンフレットです。四つ折りになった紙の中面に、講演などのプログラムが書かれています。講堂では、「貧乏はなくせるか否か」をテーマに討論大会が行われ、能楽部による「仕舞」や、国大グリークラブを招いての合唱なども行われていました。演劇研究部や映画研究部、放送部、産業調査部、新聞部、地理研究部、華道部、弁論部、珠算部、図書部など、現在は存在しない部活動の名前も多く見られます。フェンシング部による招待試合も披露されています。

会場案内図からは、当時の校舎の様子が見て取れます。1階が食堂となっていた講堂は、校舎に抱かれるように建っていたことがわかります。


創立75周年記念

Y 校祭

11月9日（土）・10日（日）

横浜市立横浜商業高等学校生徒会

（市電宮元町1丁目・京浜急行南太田下車）

Y校祭に際して

学校長　杉田正人

Y校祭を往して、父母先輩などに見ていただくことになった。これは学芸の展示と公演とであって、学業・生徒会活動が多彩であるだけ、その内容もいろいろであろう。自信ありや否や、創造的なものへ。しかも高いものをねらって努力して来た成果が、どのように表現されているか、興味なきを得ない。この個に対して、借り物はさり、自分たちの研究の成果や考案によるもの、本気になって良く練習しつづけた上のものにかぎって、未熟でも、見ばえ聞きばえがしなくても、展示公演さるべきであることを、私は始めて来たので、誠すなものになるまいと考える。

Y校祭は本校の歴史を回顧するの日でもある。したがって、その現示もある。本年は横浜商法学校の名で、本校が美沢先生によって創立されてから七十五周年にあたる。明治大正の時代、本校の日本教育に占めた位置は高く貴重であり、全国から入村を集めて、高い程度の商業教育を施し、日本経済の進展に大なる寄与をなした卒業生を多く実業界に送り、国家的な実業家も少なくない。商業高校も増加し、大学教育も大衆化をとげた今日、一面業商業で日本経済を左右する大勢力となり得いが、しかしその歴史と創立の精神とかんがみるとき本校の日本経済進展に対する使命が軽くなったとは考えられない。生徒の業質能力など他にまさるとも劣ってはいない。その伸びる業質などを先輩に比しても劣るものでない。自ら本を背負って立つのはわれわれだと言う意気込をもっているか否やと言う点では、先輩にかなわないのではあるまいか。先輩にはわれわれの援護にするに足る力が多くおられる。現在の日本は明治・大正時代の日本より一層重大な時局に直面する。したがっておれわれの責任も一段と重くなければならない。このようなことをY校祭の日に考えるべき大切なことである。歴史をほこる者たちには、それだけの重責があることを認識すべきである。

Y校祭に際して

文化委員長 3-1　福岡　敦

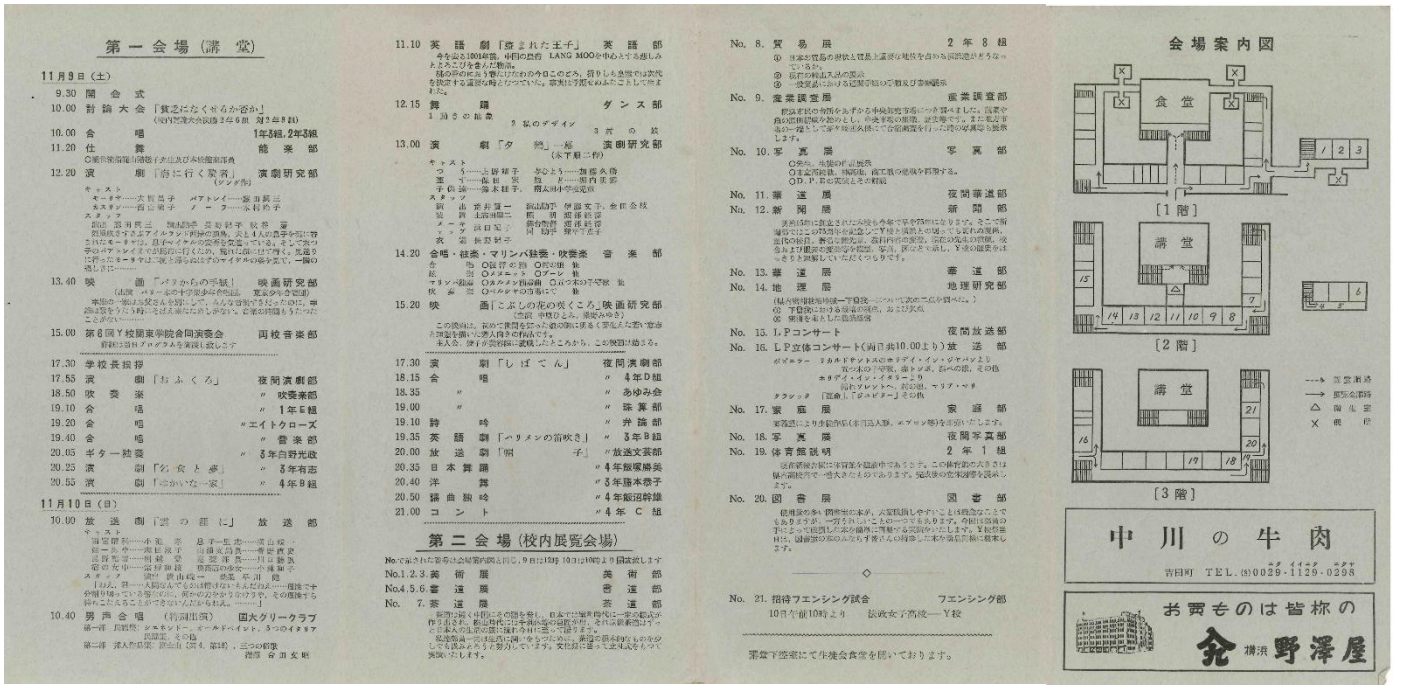
本校は創立75周年を記念して、数かぎりある今日ここに「Y校祭」を開催できますことは、生徒全員の喜びとするところであります。

この行事は、平素の学業やクラブ活動を皆様の前に御披露するもので、「祭」として美しく飾ったり、騒ぎたてたりするものではありません。

本年のY校祭はたんえどのごとくなるのであるに止まらず、我々Y校生はただ全力を尽して今日を迎えたことを誇りたいと思います。そしてこの機会に、校外の皆様にY校生を十分理解していただきたいと思います。

校長先生のお言葉に「Y 校祭は本校の歴史を回顧するの日でもある」とありました。




第一会場（講堂）

11月9日（土）

9.30　開会式

10.00　討論大会「貧乏はなくせるか否か」（司会者選出会議議長2名出席）

10.00　合唱　1年5組、2年3組

11.20　仕舞　能楽部

（能楽部顧問高橋荘子先生及び本校職員出演）

12.20　演劇「海に行く気満」　演劇研究部

（シンデ作）

キャスト

キーチャー……大賀昌子　メアトレイ……新井新三

カスタリー……西山栄子　ノーラ……水谷好子

スタッフ

演出　森井照三　舞台監督　長谷部子　装飾　著

効果担当　オスカルソン研究会員、英士4人の豊学生徒に特ラいたモーチャン、及びイアルの交流を記念しているもとに次の学のパアレイズの方に行くのか、残れに帰ったら？　先輩のにおけったモーチャンは一体どこの国のマイアルの様な気で、一国の主人公は……

13.40　映画「ノオカからの手紙」　映画研究部

（出演　バターボールの中学生徒の生活　英米少年少女間）

本校の一番よい友だちを紹介して、みんなの知らうちょっとの口、単語は知らなくても、ちょっとは英語にたれしかない。記者の問題もうたっていることがわかる。

15.00　第6回Y校関東学院合同演奏会　両校音楽部

前校は当日プログラムを実演し致します

17.30　学校長挨拶

17.55　演劇「おふくろ」　復間演劇部

18.50　吹奏楽　〃　吹奏楽部

19.10　合唱　〃　1年E組

19.20　合唱　〃エイトクローズ

19.40　合唱　〃　音楽部

20.05　ギター独奏　〃　3年白野光政

20.25　演劇「名食と夢」　〃　3年有志

20.55　演劇「幸かいた一家」　〃　4年B組

11月10日（日）

10.00　放送劇「雪の夜に」　放送部

キャスト

海堂信利……小笠　孝　息子三吉……渡辺俊一

信一と少……佐藤洋子　三浦文昌……寺田世史

近所先生……羽根　登　近藤伸吉……川口勝久

雪の女中……宮野静枝　警察官の妻……小林和子

スタッフ　演出　鹿山敏一　構成　杉山　稔

「おお、雪……人間はみんでもお前はいらえるだろう……現在でも幼稚が増っている事ごのに、雪がの父がうりながら、その風情でも降れこうることができないだろうか……」

10.40　男声合唱　（指揮出演）　国大グリークラブ

第一部　民謡集：シモネット、ボールドイイント、5つのイタリア

第二部　詩人作曲集：訳出由（3名、第3部、三つの部歌

指揮　谷田文敏

11.10　英語劇「奪された王子」　英語部

今年度は1001年間、中日の昔の LANG MOO を中心とする感しみとたろうことを含んだ物語。

我の学のことを1度にたためのの今日このごろ、皆りしも息間では次代を決定する重要な時となっていた。幸福は与えるものとして相反び幸福感示。

12.15　舞踊　ダンス部

1 踊きの指導　2 私のデザイン　3 その絵

13.00　演劇「夕鶴」…原　演劇研究部

（木下順二作）

キャスト

つう……上野祥子　与ひょう……加藤公治

運ず……佐藤宏　惣ど……堀内重彦

千右衛……海本桂子　雨乞山小学生数名

スタッフ

演出　山本昌一　照明　堀内　博

舞台　山田　勇　効果　岡　幹洋　舞台監督　金田金枝

メーク　高田知之　衣装　清水智恵　渡辺紀子

ナレーター　岡　幹洋　舞台　堀内　博

衣装　長野紀子

14.20　合唱・独奏・マリンバ独奏・吹奏楽　音楽部

合唱　○混声の詩　○男の歌

独奏　○メヌエット　○アーレ　他

マリンバ独奏　○スケルツォ指導曲　○ハンガリアの子守歌　他

吹奏楽　○ベルゲマスクの行進について　他

15.20　映画「こぶしの花の咲くころ」　映画研究部

（出演　中野ひとみ、藤原みゆき）

この映画は、初めて農園を訪ねた都会の娘に戻る1家族と若い農夫の交流を描いた美人画の作品です。

未入会、使子が農園に就職したところから、この映画は始まる。

17.30　演劇「しばてん」　復間演劇部

18.15　会　唱　〃　4年D組

18.35　〃　〃　あゆみ会

19.00　〃　〃　珠算部

19.10　詩吟　〃　弁論部

19.35　英語劇「ハリメンの笛吹き」　〃　3年B組

20.00　放送劇「銅　子」　〃放送文芸部

20.35　日本舞踊　〃4年飯塚勝美

20.40　洋舞　〃3年藤本恭子

20.50　謡曲独吟　〃4年飯沼幹雄

21.00　コント　〃4年C組

第二会場（校内展覧会場）

No.で示された部毎に会場案内図参照）11月9日は13時10分より10時より開始致します

No.1.2.3 美術展　美術部

No.4.5.6 書道展　書道部

No. 7. 茶道展　茶道部

展覧に際く作品の題を掲し、自ら下に簡単な説明を加えてあります。作品は、数点出代には多数の部数があり、それに関連部はテーマに基づいた数人の生徒の展に関する作品で構成されます。

見学者は一応は自由に回って見ていただきたいが、展覧の際の作品の中心としても良いように努力しています。文化部に通うと更に充実を与えて頂いております。

No. 8. 貿易展　2年8組

① 日本の貿易の現状と貿易上重要な地位を占める国際港がどうなっているか。

② 我が国の輸出入品の説明

③ 一般家庭における記事類の下調及び参観展示

No. 9. 産業調査展　産業調査部

横浜市民の毎日をあずかる神奈川県の地理的条件について調べました。当業や商の農業関係を知のうえ、小売手段の重要、並先等です。また横浜市を一例として海や港を入口にした合理的産業行っこと時の発展を説明します。

No. 10. 写真展　写真部

○発売、生徒の作品展示

○生産関係、特別品、商工業の現場を写真する。

○D.P.Eの実演とその解説

No. 11. 華道展　復間華道部

No. 12. 新聞展　新聞部

英語部に創立されたY校も今年で早や75年になります。そこで新聞部ではこの75周年の記念として校内を隅から隅まで取材して、当日の特別、新聞の発刊、当日の催物、各種内容の説明、写真の発表の説明、又各および関係の歴史等を説明、写真、図などを示し、Y校の関係をはっきりと理解していただくつもりです。

No. 13. 華道展　華道部

No. 14. 地理展　地理研究部

（私共地理研究部は第一学期……について次の三点を研究した。）

① 下関港における各港の特色、および貿易

② 関連を考えた横浜港湾

No. 15. L.Pコンサート　復間放送部

No. 16. L.P立体コンサート（雨日共10.00より）放送部

ポピュラー　ラルドヤントのポピディ・イン・ジャパンより

我が国の「平家」語トップ、若人の歌、その他

ポピディ・イン・イタリーより

当社プレゼントへ、お知恵、マリア・ベネ

クラシック　「運命」「シンドラー」その他

No. 17. 家庭展　家庭部

実習によりお勧品作（本日売入場、メアリン等）を出品いたします。

No. 18. 写真展　復間写真部

No. 19. 体育館展明　2年1組

体育館内部に体育館を組織中であります。この体育館の大きさは横浜商業学校一個大きなものであります。完成後の立体図等を説示ようよう。

No. 20. 図書展　図書部

図書室の多い図書室の本が、大変読みやすいように整理なっていてもありますが、一寸ちがいことの一つでもありますが、今回は図書の手によって説明した本を展示に準備する予定であります。Y校祭期間中は、図書室の多くの人々が皆さんの御来に基本を図書室に基本しております。

◇

No. 21. 招待フエンシング試合　フエンシング部

10月午前10時より　鉄成女子高校―Y校

当室で控室にて生徒会食堂を開いております。

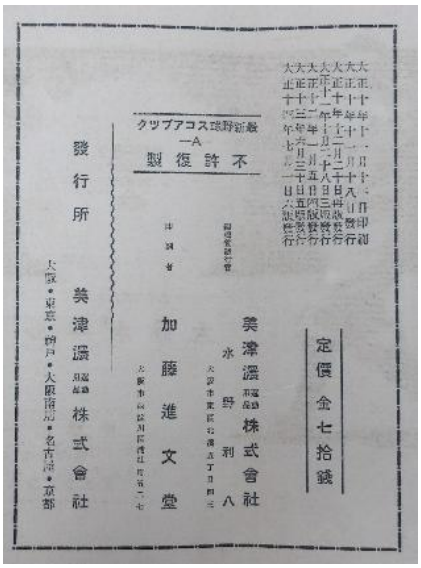
会場案内図

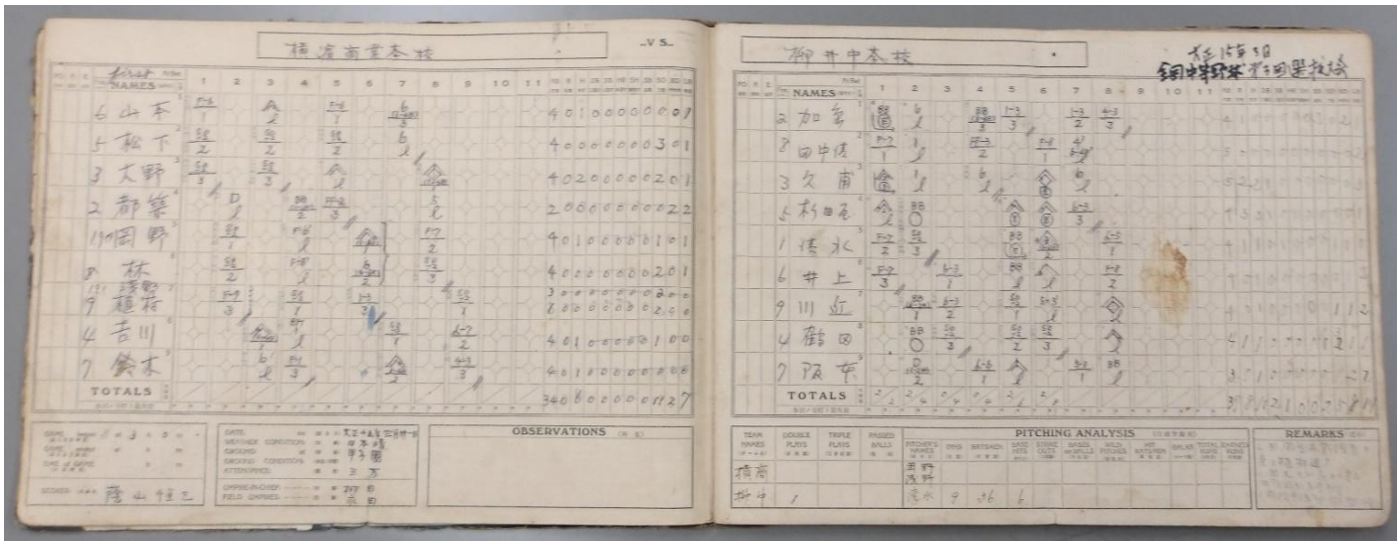
Y校アーカイブ　vol. 27　「 ベースボール スコアブック 」

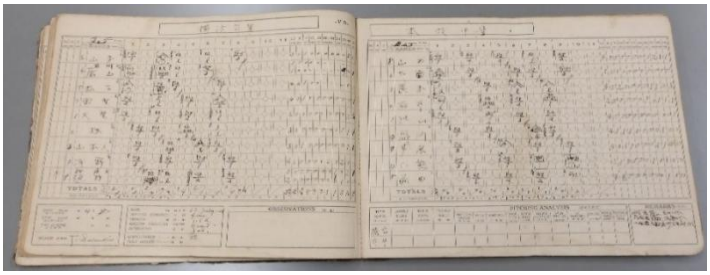
大正15年の、野球のスコアブックです。ページを開き、最初に書かれているのは「全国中等野球第3回選抜大会」、大正15年3月31日に甲子園で行われた「横濱商業学校 vs 柳井中学校」(現在の山口県立柳井高等学校)の試合です。 今年、第96回が行われた春のセンバツの「第3回大会」に出場したときの記録で、天気は「日本晴」、試合は惜しくも8－0で負けてしまっています。現在の硬式野球部と軟式野球部のマネージャーさんに見てもらったら、二人とも「今と違うところもあるけれど」と言いながらも「これはピッチャーゴロでワンナウト…」などと、丁寧に解説してくれました。

このスコアブックの発行元は美津濃運動用品株式会社、横長の A4 版で、定価は70銭です。









早稲田実業や慶應商工部、慶應普通部、関東学院、神中(現在の希望ヶ丘高校)、本牧中学、浅野綜合中学、鎌倉師範、貿易商業、甲府商業などとの26試合が書き込まれています。

本牧中学は横浜高校の前身で、巨人軍入団第2号の苅田の名前が見られます。

Y校アーカイブ　vol. 28　「卒　業　證　書」

大正6年に卒業された方の、卒業證書です。

大きさは、縦35㎝、横45㎝です。

個人名が書かれているので名前の部分は伏せましたが、名前の前に「神奈川縣平民」とあります。

Y校アーカイブ vol.20 で出した「生徒手帳」にも「身分」という欄があり、「平民」と書かれていました。広辞苑によると、「平民」とは「官位のない普通の人民、庶民」で、1869 年（明治2年）に設定された族称のひとつであり、1947 年（昭和 22 年）に廃止、とありました。

校名の下にはY校初代校長の美澤進先生の名前が見られます。美澤先生は、明治15年の開校時より、大正12年に亡くなられる日までの42年間にわたり、Y校の校長を勤めあげられました。講堂の白い像の、長いあごひげの美澤先生が、おそらく直接その手で卒業生に渡した卒業證書を前にして、身が引き締まる思いです。



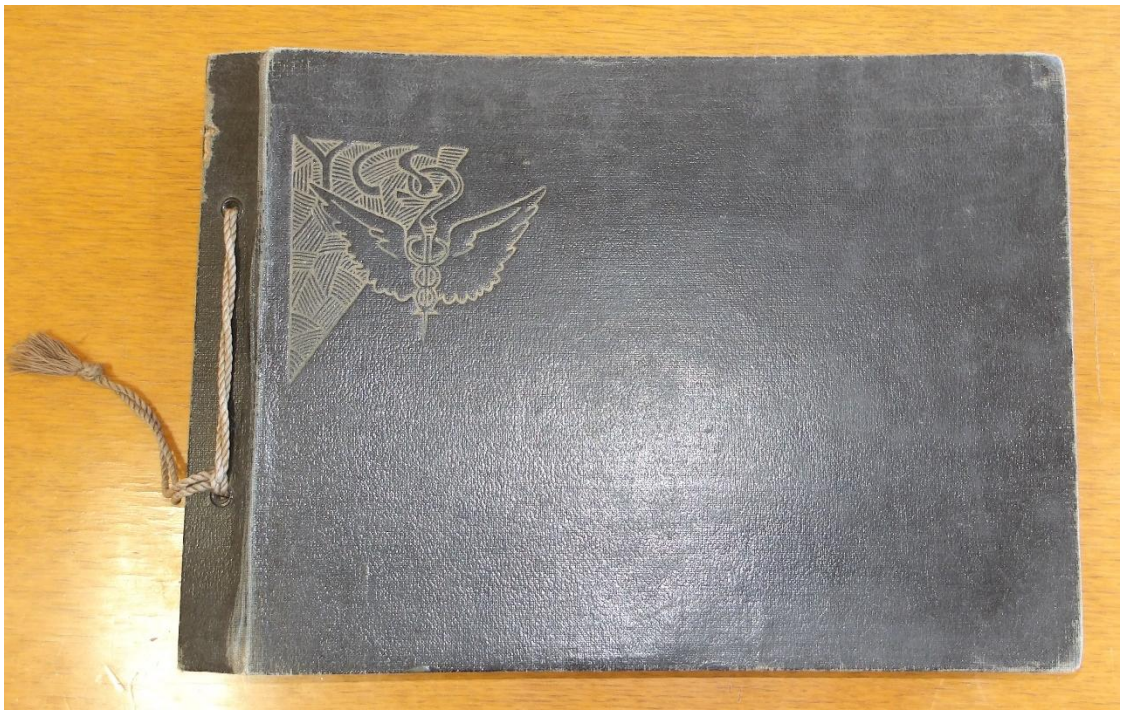
Y校アーカイブ　vol. 29　「 Y専 第1回卒業アルバム 」

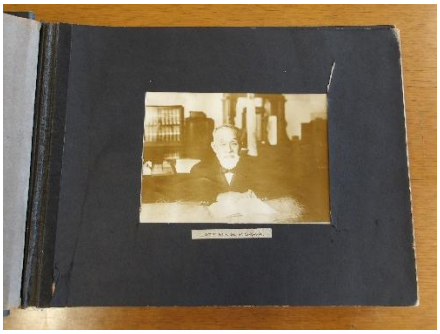
横浜市立大学のルーツはY校にあって、昭和3年に設立された「横浜市立横浜商業専門学校」（通称・Y専）でありますが、設立年度の前年である昭和2年3月19日の日付が付いたY専の卒業アルバムが存在します。

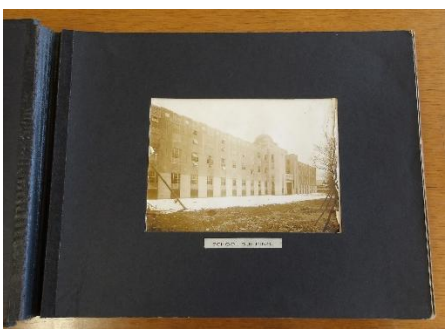
表紙の裏に「昭和二年三月十九日　専修科第一回卒業者　○○○○（寄贈者個人名）外十二名ヨリ寄贈　昭和二年四月十一日受領ス」と記載されています。

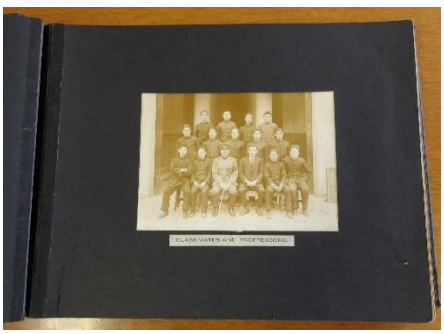
大きさは縦23．8cm、横33．8cmの横長で、4．3cmの厚みがあり、紐で綴られています。

表紙をめくった1枚目には大正14年に亡くなられたY校初代校長の美澤進先生の写真があります。ほかに校舎の写真や集合写真、授業の様子などで構成された前半の写真は11．4cm×15．2cmの大きさです。厚紙に貼られた写真に、黒い紙の枠がついています。後半は8．2cm×6cmの縦長の小さめの写真におさまった先生方の写真が18名分、10．3cm×7．4cmの少し大きめの個人写真の14名は全員卒業生のようです。昭和9年に発行された「Y校同窓會會員名簿」の昭和2年のページに（専修科　總員十四名内物故者一名、商業學校總員五十七名内物故者八名）とあり、この「専修科」に記載されている名前と、アルバム写真の名前とが一致します。





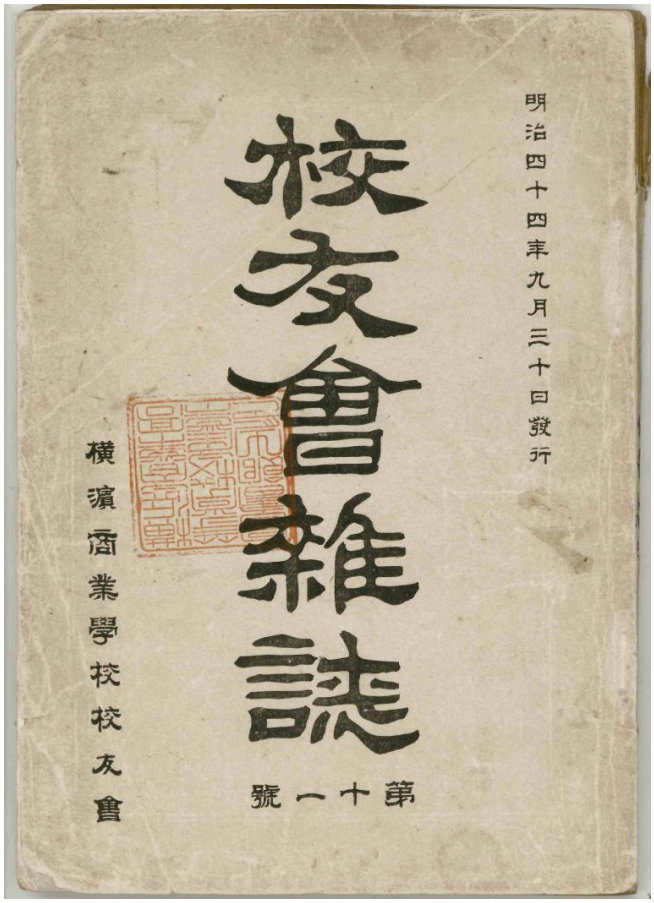


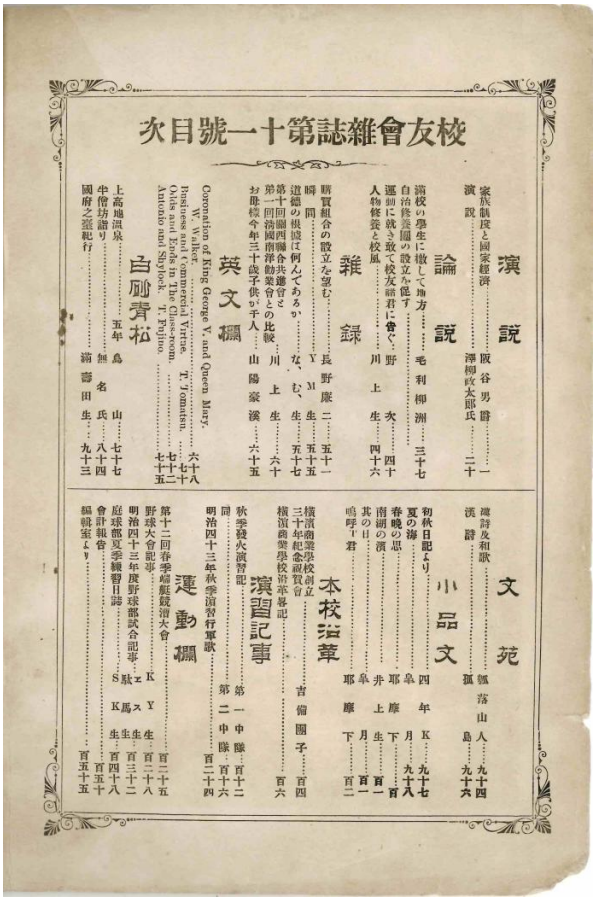


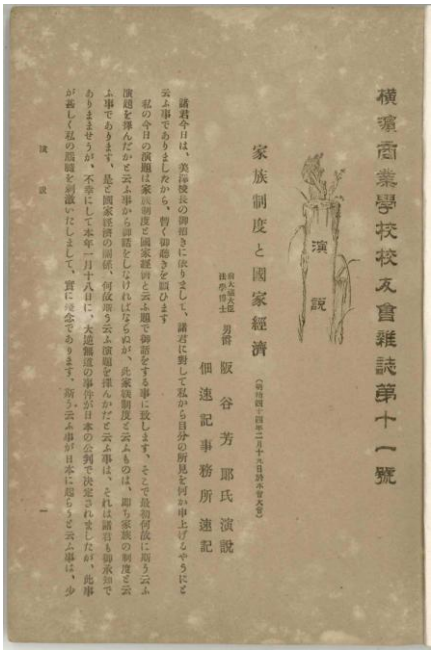
コメントはすべて英語で書かれています

Y校アーカイブ　vol. 30　「校友會雑誌」

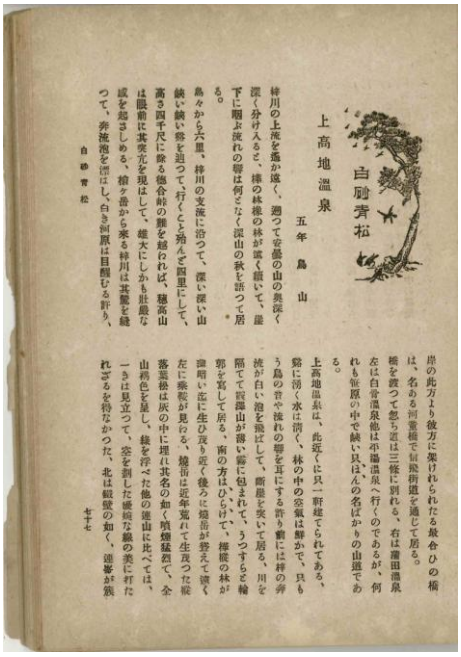
明治44年9月30日に発行された「校友會雑誌」第11號を紹介します。 いまY校で発行している「清水ヶ丘」のような冊子で、大きさもほぼ同じです。 阪谷芳郎男爵の演説録から始まり、論説、雑録、英文欄、そして生徒が寄せた気ままな文章や部活動の記録、学校の沿革、軍事練習の詳細な記録まで、充実した内容が156ページにわたって掲載されています。











男爵の阪谷芳郎氏は、大蔵大臣や国会議員、専修大学総長などを務めるなか、多くの学校に関わっていたことが知られています。 講演を速記にて記録していたことも、最近にはないことで新鮮です。